

南スーダン 深刻

陸自派兵地「最も不安定」

公述人「PKO5原則崩れる」

衆院予算委 中央公聴会



意見陳述する今井高樹氏
21日、衆院予算委公聴会

衆院予算委員会は21日、

2017年度予算案に関する中央公聴会を開きました。予算案について公述人の小田川義和・全労連議長らが意見を陳述するとともに、自衛隊がPKO（国連平和維持活動）に派兵されている南スーダンの深刻な実情について日本国際ボランティアセンター（JVC）の今井高樹氏が陳述しました。

↓関連②④面
今井氏は、自衛隊が活動する避難民保護施設の周辺地が「ジュバの中でも最も不安定な、何かしらの衝突が起こっても全く不思議ではない場所だ」と指摘。施設内に避難する元副大統領のマシヤール氏の出身部族に対し、政府軍が襲撃を繰り返していると話し、「日本政府は『ジュバは落ち着いている』というが、（停戦合意の成立などを派兵の要件とした）PKO5原則は崩れている」と強調しました。

防衛相が「武力衝突」と言い換えたことに対し、今井氏は「言葉遊びのようなものだ」と批判。「現地からみれば、みなさん自分の家族を亡くし、あるいは家を追われ、いままも避難生活を続けている。多くの方が亡くなった。国会でどう表現しようか現場で起きていることは変わらない」と訴えました。

日本共産党の宮本徹議員は、日本政府が昨年12月、国連安全保障理事会での南スーダンへの武器輸出禁止の制裁決議案に棄権し、廃案に追い込んだことに対する見解を尋ねました。今井氏は、「実際に戦闘が起こっている中では（武器禁輸は）何よりも重要だ」とするとともに、正規輸入ルート以外に周辺国から武器が流入する現状も指摘。

「禁輸だけではなくどうやって和解を達成していくかが重要だ」と述べました。